

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。〔15番 中村 実君登壇〕

○15番（中村 実君）

創生クラブの中村です。一般質問の質問に入る前に、7月の熱海市の土石流災害及び、8月の広島や北九州地域での豪雨災害でお亡くなりになられた方々に対し、ご冥福を申し上げるとともに、被災した皆様方に心よりお見舞いを申し上げまして、1点目の記録的な豪雨災害についての質問をいたします。

お盆の8月11日から記録的な大雨により広島県内や九州地方などで土砂崩れや河川の氾濫により、多くの方々がお亡くなりになられたり、家屋の倒壊などが毎日のようにテレビで報道されてきました。今回の大雨は、3年前の西日本豪雨をはるかに超える雨量を記録し、激甚災害にも指定されるということで早期復興が進むのではないかと期待をしているところであります。

また、糸魚川市においてもお盆のさなか何日も大雨が続き、8月13日から19日まで大雨警戒本部の設置や自主避難所の開設もありましたが、何事もなく安心をしたところではありますが、来海沢地区の皆様にとっては眠れない日々が続いたと思っております。

そこで今回の大雨警報の中、何人の方々が避難所に避難したのか。また、大雨警戒本部解散後に何か反省点はなかったのか伺います。

次に、上越地域シートゥーサミット実証実験について、伺います。

8月21日早朝に、糸魚川市から上越市、そしてゴールの妙高市までのシートゥーサミット2022に向け、糸魚川市ではマリンドリーム能生から筒石港南公園までの間、約4.4キロメートルをシーカヤックを使い、試走するという実証実験が行われました。糸魚川市では、カヤックで海の魅力を満喫し、上越市では自転車、妙高市では登山を行い、自然について考えようという素晴らしいスポーツイベントだと思いますが、今回の試走を振り返り、今後の取組について、どのように考えているのか伺います。

次に、糸魚川市役所・能生・青海事務所の執務環境の見直しについて、伺います。

職員の執務環境については、先日、阿部議員と話をする中で、昼食時に職務室が暗過ぎる、また洋式トイレが少な過ぎる、トイレの洗面台の蛇口の自動水栓化が一部でしかないとの話になり、その解消についてお話をしたところであります。

また、職員が昼食を取るときに、受付窓口以外の電気を消していることについては、節電の効果もあり、取組自体を否定するものではありませんが、庁舎のLED化も進んだことから、節電の一部を緩和し、せめて昼食を取る時間くらいは少し明るいところで食べてもよいのではないのでしょうか。

また、新型コロナウイルス感染症が収束した後は、仲間と一緒に会話を楽しみながら食事ができるスペースがあれば、職場の雰囲気はさらによくなるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

次に、庁舎の洋式トイレについては、現在、非常に少ない状況ですが、各階に男女最低一つは設置したほうがよいのではないかと思います、いかがでしょうか。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、トイレの洗面台の蛇口の自動水栓化や照明の人感センサー化も必要と思いますが、いかがでしょうか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1番目につきましては、市内4か所に自主避難所を開設し、そのうち市民会館に2世帯2人が避難いたしました。また来海沢地区に避難指示を発令し、避難所として開設した西海地区公民館に8世帯10人の方が避難いたしております。幸いにも今回の大雨による被害等の報告はなく、早めの避難情報を出したことはよかったと考えております。今後も市民が早めの避難行動を起こせるよう出前講座などで周知をまいります。

2番目につきましては、これまで当市のイベントとしてシーカヤックの経験が少なかったことからこのたび実証実験を行ったところであり、当日協力いただいた関係者の意見を踏まえ、来年度の開催に向け準備をまいりますと考えております。

3番目につきましては、昼食時の消灯はご意見をいただき、8月中旬より12時15分からいたしております。食事ができるスペースにつきましては、男女それぞれ休憩室がありますが、広いスペースではないことから今後空いている会議室を開放するなど対応を検討まいります。

トイレの洋式化につきましては、本庁舎において現在計画をいたしております。また、蛇口の自動水栓化と照明の人感センサー化につきましても現在、1階と2階のみとなっておりますので3階以上の階にも準備をする予定であります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

1回目の質問でも申しましたように、7月には、熱海の土石流、そして8月に入って四国、九州の集中豪雨ということで多くの死者が出てしまいました。また、テレビでも毎日のように報道されていたわけですが、糸魚川市の自主避難者が来海沢を除けば2名ということでもあまりにも少なかったのかなというふうに感じておりますが、どのようなことが考えられるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

今回は避難指示ということではなく、自主避難所の開設ということで周知をいたしました。その

ことによりまして、気象警報が発令をされておりましたが、実際の雨の状況、あるいは河川の増水が小さかったというようなことから自主避難の決断をされる方が少なかったのではないかというふうに推察しております。また、市内4か所という限られた施設での自主避難所の開設でありましたので、なかなかそこまで行けない、山間部の遠いところからはそこまでは行けない、そういったことで避難をちゅうちょされたようなこともあったのではないかというふうに感じております。これからは、こういう自主避難を必要とされる方がやはり避難しやすいような開設について、やはり今後も検討していく必要があるというふうに思っております。今回は自主避難をされた方は少数ではありましたが、広報や安心メールの呼びかけによりまして、少なからず避難行動に向けた心構えをしていただけたものというふうに考えておまして、引き続き早めの情報発信、あるいは避難所等の開設によりまして、市民の安全・安心を守っていききたいというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今ほど消防長が言われたように、自主避難ということなので、まだ少し気持ちに余裕があったのかなというふうに思っていますし、正直言って私ももう少し様子と見てというところで考えていたところではありますが、やはり今の答弁のように、自宅からどうしても、今回は、相当の大雨ということで地滑り等も考えられるんですが、自宅からの距離がちょっとあり過ぎたとか、それから高齢者、または免許のない人たちが避難をしづらかったと。それから今私を感じてたように危機感をさほどまだ感じていないぐらいの雨量だったのかなというふうに思います。また、最後にはコロナ感染が怖いというのもあったと思うんですけども、その辺は反省会の中でそういう話も出てきたもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

私ども防災を携わる部署、あるいは警戒本部の中でそういう話題が出てきたかということ、直接そういった話題は出てきておりません。ただ、やはり今回の自主避難の呼びかけに対して、やはり一部地区の高齢者の方から問合せがあったりして、やはりそういったところもありましたので、しっかりその辺は対応をしていきたいというふうに考えております。

コロナに関しては、やはり受付での手指消毒、あるいは検温、また避難スペースの場所、そういったところを間隔を取るなどして、最低限の感染対策を取っておりましたが、今回大変少ない自主避難者でしたけれども、多数の避難者があったときでも同じような対応ができるようにしっかり訓練等を通じて対応力を高めていきたいというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

コロナの話があまり出てこなかったようなんですけれども、当然それは既に対策が済んでいるということだから、そういう反省点はなかったと思うんですけれども、これから今回の4か所だけではなくて、いろんなところに、例えば今回はやはり大雨ということで川の氾濫までは予想するほどではなかったんですけれども、やはり山手のほうの地滑りが非常に心配だったということなんです。やはりそういった中で、近くの集会所か公民館とかというところに今後そういう避難場所を設けることになるんですが、そういうところのほうは気心の知れた人や避難しやすい距離的なものもあるんで、そういうところにもそのコロナ対策がなされているのか。今回の4か所は町なかなかなのでそういう対策はあったと思うんですけれども、そういうところまで目が届いているのかどうかというのをお聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

コロナ対策を踏まえた避難としましては、今分散避難が求められております。避難所以外での自主避難、あるいは自宅の中でもがけのほうから遠いほうに避難するというような避難、それから親戚や知人宅への避難なども検討していただくように周知を進めておるわけでございまして、併せてご指摘のように近くの集会所等にもやっぱり避難したいというのもあると思いますので、各地区で自主的に開設をしていただく、集会所に開設をしていただくということも含めて出前講座などで地区の皆さんと話し合っていきたいというふうに思っております。またそういった際には、今地区の公民館等に配備しているコロナ対策用品、そういったものを急遽集会所に移動させる、持っていき、そういったところも併せて体制をしっかりと組んでいきたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

なかなか新たにそういう会議を持つということも大変だと思いますし、こういうときにそういう反省を踏まえた中で、当然毎回のごとくコロナ対策というのも計画の中に入れていく必要があると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

また新潟県内の地滑りとか災害を見ると、糸魚川市が断トツに数が多いというのが見えてきます。過去の災害を見ても、多くの災害で多くの方々が亡くなられている。最近では、来海沢地区の災害がありましたが、今回の2世帯というのは、来海沢では当然避難された方もいますけれども、今回やっぱり2世帯というのはちょっと危機感が薄れてきているのかなというふうに思いますけれども、今後防災意識を高めていこうという、この2人という人数を見て、後の反省の中でそういう話が出てきたのかどうか、また今後防災意識を高めるためにどうしていけばいいのかというような反省が

あったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

市民お一人お一人が防災対策を考える上で、やはり自宅の周辺の危険とか、地形とか地質を知ることが大事だというふうに思っておりますし、やはり身近で起きた災害等についても知っておくということも非常に重要だと思っております。そういったことが危機感につながる、防災意識の高まりにつながるというふうに考えております。地域の実情に応じた、その地域地域に応じたより効果的な防災対策を進めていく必要があるというふうに考えておりました、出前講座等を通じて、過去の災害事例なども紹介したり、あるいは地域の方から昔の話を聞いたり、そういったことも大変重要なことだというふうに思っております。そういったことで地域全体の防災意識を高めるような取組を進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

そうですね、やはり各地区に足を運んで、区長会とか、総会等があったらそういうところで防災について話をする必要があるというふうに思いますし、そのときもやっぱりハザードマップですよ。案外ハザードマップは配布されるとそのまましまい込んで終わりみたいなそんな感じがして常備、目を通すということがあまりないんですが、ハザードマップの活用方法も教えていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。私も小学校5年のときに、小泊の地滑りでうちをなくしました。やはりそのときの状況を目の当たりにしてますので、雨が降ると非常に怖い思いをしますけれども、一步避難というところまでなかなか踏み出せないというところがあります。やはり災害を体験したことがない人は避難がもう少し遅れるんだろうなというふうに思いますので、ぜひそういうことも反省会の中でどんだん話を出しながら対応していただきたいと思いますけれども、ハザードマップの活用方法というのはどんなふうに考えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

ハザードマップにつきましては、このハザードマップを作成するに当たって、地区の皆さんからも危険箇所のご意見を聞く。また一時避難先や避難経路を一緒に検討していただいたりということで、その結果をハザードマップに反映させるようにしております。今後も出前講座などで活用したり、自宅周辺の災害リスクを知って、最寄りの避難所や避難経路を確認していただくツールとして、各種ハザードマップの周知、活用を図っていきたいというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

そういう方法もありますし、要は前に出初め式を南口で行うようになって、そこに参加していると、子供連れの若いご夫婦、またお父さん、そういう姿が多く見られるんですよ。やっぱりそういうところも活用しながら防災を教えていくと。それとか姫川・関川総合水防演習、ああいうところにあまり子供たちの姿が見られないようなんですけれども、なるべくそういうところに多くの人たちを、特に子供たち、やはりそういうときにそういう体験をさせておくと、大人になっても必ず頭の隅っこに残っていると思うんですよ。そういうことを子供のときから教えていくというの必要だと思いますので、ぜひそういうところをつかまえて、子供たちが喜ぶようなアトラクションを置くことも必要かと思えますけれども、そういう対策もしていく必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

今、議員おっしゃられたように、やはり私、先ほど出前講座というような言い方をしましたが、やはり出前講座だけではなく、あらゆる機会、あらゆる集まり、あらゆる人が集まった機会を捉えてやはりそういうお話につなげていきたいというふうに考えております。

先ほどの水防演習においては、今年、昨年とコロナの関係等で子供の参加もありませんでしたが、やはりそういう大規模にやる時には子供さんの参加も得たりしてやはり小学生のような小さいときから、そういうのに関わるとやっぱり意識が残ると思えますので、そういったようなことも併せてやりながらいろんな機会を捉えてやっていきたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

避難所が終わった後に話合いの中で、多分これ大きな問題というか、これからのことなので出てきたかどうかちょっと分からないんですが、上越市では新たに、この前の新聞に出ていたんですけども、1,000年に一度の災害に対応できるような雨を想定した12時間に517ミリ、洪水マップを作成したということですかね。それも今まで9河川しか見てなかったですが、今は22河川までに拡大してやっているという、そういうものも糸魚川市でも当然これ国の指導か何かだと思いますので、糸魚川市でも既に取り組んでいるというふうに思いますけれども、こういうものもやっぱり会議の中でしっかりとこういう話をしながら、どのように生かしていくのかということも話の中に出てくればいいのになというふうに思っていますが、出てきたのかどうか分かりませんが、糸魚川市としては、今の1,000年に一度の洪水ハザードマップに取り組んでいると思うんです

けれども、進捗率、どの辺からどういうふうにしたのか、その進捗率を併せてお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

当市でも平成31年3月に姫川のハザードマップをつくっております。また今年4月に能生川の支川も含めて能生川水系の想定災害規模のハザードマップを作成し、公表しているところでございます。今年度は海川水系もやる予定でございますが、海川については年内の公表を目標としております。これは平成27年の水防法改正で1,000年に1回の大雨を想定した浸水想定をつくるということになりまして、それに基づいてやっているわけでありまして、この浸水想定につきましては、新潟県が浸水の想定を行い、その結果を市町村がもらって、実際に逃げる経路、あるいは避難所の場所、そういったものを埋め込んでハザードマップとして作成をするものであります。今後もほかの河川についても随時調査結果が示される都度、公表された河川から順次ハザードマップを地域の方と話し合いながらつくっていく予定としております。

現状としましては、全部で8河川あるうちの終わったのがまだ2河川、姫川水系と能生川水系ということでございます。これから海川水系、あと以下順次進めていきますが、県のほうでもこの浸水想定調査をかなり前倒ししてもやりたいというお話も聞いておりますので、結果が出次第進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今ほど8河川という話があったんですが、今までの河川数は8か所だったのか。また8か所に増やしたのかということと、それから令和3年4月に能生川が既に終わっているということなので、マップ作成が終わって、4月に配布されたということなんでしょうか、その辺確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

失礼いたしました。先ほど8河川と申し上げましたが、これまでは7河川でやっておりました。今回8河川の増えた1河川というのは、富山県境の境川、この部分が一つ加わって8河川ということでございます。ただ、この境川については、富山県で調査を行うということで、新潟県と富山県が調整して、富山県側で調査を行った結果を頂くという形になっておりますので、実質は7河川のままということでございます。

それから同じく7河川でも例えば能生川ですと、支流として島道川とか小見川とかいろいろ2級河川に流れ込む河川、ここについても併せて調査をしておりますので、全体としては16の河川について調査を行うという形になります。

それからマップにつきましては、能生川は今年の4月に公表しまして、該当地区には配っているはずなんですが、ホームページ等では出しておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

すみません、洪水マップを確認していないんです、私。もしかしたら皆さん知らないかもしれないので、配布したとかなんとかという話はもう少し、CATVとかそういうものを使ってでもお願いしたいと思いますし、1,000年に一度の大雨というのはどういうふうに想定するのかちょっと私も理解できないんですが、早急に対応していただければなというふうに思っています。

それから民間気象会社でも今後しっかりと許可を取って、行政にでも情報を販売できるというようなことが気象庁と国交省のほうで9月中にそういう方向性を出すということは既に消防長は分かっていると思うんですが、そういったやっぱり洪水マップとか、そういうマップも必要だと思いますけれども、より早く市民の方々に情報を流すということになると、民間の情報も今後早期検討していく必要はあると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

今ほどの件は8月24日に国の洪水及び土砂災害の予報の在り方に関する検討会の中でその話題が出まして、報道がされたものでございます。今後、民間の予報会社の情報も一緒に出せないかというところで検討するという事になっておりますが、まだ時期については未定だということでございます。私ども市といたしましては、よりきめ細やかな情報が得られれば、市民の皆様への避難情報等の発令範囲や発令のタイミング、これがより適切に行えることとなりますので大いに注視をし、早急な対応が得られるよう、その結果が出ましたら直ちに反映できるように検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

民間の気象会社はどのくらいの信頼性があるかというのもなかなか心配ですけれども、私もニュースや天気予報を必ず見るようにしているんですけれども、どうしてもNHKのほうへ目が行ってしまうというところがありますので、しっかりと信頼性を確認した中で決めていただければ早い情報が得られるのではないかなと。この情報というのはワンポイントで情報を流せるということなの



で、糸魚川市全体ということじゃなくて、能生地域のどこどこ、青海地域のどこどこという、こういうポイント的な情報も出そうなことなので、ぜひ対応を急いでいただければなというふうに思っております。

先ほどもちょっと防災無線の話も出てきたんですけども、私も市民の方々から特にこういう雨の降るときには、窓も全部締め切ってしまうので、防災無線の声が聞き取れない。これは毎回同じ話が出てきておると思うんですよね。やはり市民からもそのような連絡がもしかしたら何件か行っているのではないかなというふうに思っていますけれども、やはり防災無線、聞こえると聞こえないでは命に関わるという大変な問題でもありますので、ぜひ地域を回って情報を得ながら、その防災無線の聞き取れる場所、聞き取れない場所、また今後どうすればいいのか、それは何回も情報ももらってやっていることなんですけれども、改めてやる必要があると思うんですが、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

防災行政無線につきましては、先ほど議員さんおっしゃられたとおり、やはりなかなかいざ大雨のとき、あるいは台風、風がごうごう吹いているときに聞こえない、こういう声は以前からお聞きをしているわけでございます。やはりそういうときは、どうしても外のスピーカーでは全部は細かく聞き取れるわけではありませんので、やはり家の中で聞ける戸別受信機、これも一つ併用していただいて、ふだん何もなくて外の場合は外のラップでも聞こえるんだけど、やはりいざというときのために戸別受信機を備えていただくと、こういったことをお願いしたいというふうに思いまして、本年7月の広報でも戸別受信機の設置について改めて広報を行ったところでございます。戸別受信機についてもやはり今デジタルになりまして、電波が入りやすい、入りにくい、家の中でも入るとき、入らないときもあつたりしますので、やはりそういう場合には、外部アンテナを付けたりとかする、ご連絡をいただいて、入りが悪いんだけどということでそういったところをどういうふうに設置したらいいかということも調整を行っておりますし、それから最初に戻りますが、屋外スピーカー、これにつきましてもやはり雷とかいろんな不具合で鳴らなくなっている場合もまれにありますので、やはり地域の方からも気づいていただいて、私ども消防のほうにご一報いただければすぐに調査に行つて、修理等の対応をしておりますので、そういったことで、なかなか事前に全部100%にするというのは難しいんですが、ご連絡いただいてすぐに対応しておりますので、そういった形で今後も対応していきたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

家がどんどん新しくなってくると二重サッシだとか、いろんな問題があつて、やはり外の音が聞き取れなくなつてきているというのが実情なんです。私のうちもそうなんですけど、戸別受信機

をつけているんですけども、戸別受信機も放送が入らない。多分操作が悪いのか電波が悪いのか、そういったこともやはり情報としてこうやって話を聞ければありがたいので、ぜひ地区の総会とか、そういうところで情報を流せるようなそういう仕組みもつくっていただければなというふうに思っておりますし、今日も午前中、子供たちの安全についていろいろ、それは交通事故とか、そういう話ですけど、今回の災害についても子供たちに防災教育を教えなきゃいけないんじゃないかというような話も、できれば反省会の際に、教育委員会とかそういうところも交えた中で、子供たちへの防災教育も学校でできるのかどうかということも話合いがされたのかどうか、今後していく必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

まずもって、駅北大火を受けて、市の教育大綱に重点推進項目として防災教育を追加をしております。それもありますけれども、学校教育においては、各校の防災マップなどを基にしまして、自然災害の起きやすい箇所を含む危険箇所を保護者と子供たちが確認し合う、また避難場所や避難方法についても確認をしておりますので、市全体の防災教育、防災学習についても一部ではちゃんと取り組んでおります。それを市全体に今後広がりを持たせていく必要があるというふうに今感じているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

既にやられているというのはお伺いしていたんですけども、消防とタイアップして、消防の人たちから生の声を、学校の先生たちが言うのとはまた違って、実際に自分らが体験したことを子供たちに教え継いでいくのは大事だというふうに私は思っているんです。だからそういうのも毎回ではないんですけども、たまには消防職員から行っていただいて、そういう教育に生かしていただければありがたいなというふうに思いますし、糸魚川市は世界ジオパークで名を売っているわけですが、ジオパーク、自然豊かな分だけ災害が非常に多いという、ジオパーク教育は当然、教育長やられていると思うんですけども、でもその陰には災害が非常に多いんだという、そういう教育も併せてやっていく必要もありますし、自助・共助・公助、そういうものも教えていく必要があるというふうに思っています。まず、自助、自分がまず助からなくてはいけないんだと、子供心にも、自分がまず助かることによって友達だとか、家族、仲間を助けられるんだということをしっかりと教えていく必要があると思うんですが、教育長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

今ほどのご質問にお答えいたします。

中村議員さんがご指摘のように、ジオパーク学習、その中には防災教育、それもセットというふうに子どもは基本的に考えております。一貫教育のジオパーク学習を組織するとき、計画するときに、その意識も大事にしていこうということは、スタート地点から確認している内容です。気が緩むことのないように、学校現場にはもう一度、園、学校には周知しながら両セットでの意識で子供たちに働きかけを、学習を進めようという基本的な考えを確認させていただきました。ありがとうございました。

それから自助・共助・公助につきましては、防災教育の中ではもちろんですけれども、道徳教育、学校教育全体の中で、価値項目については十分に繰り返し、繰り返し子供たちに確認し、心の豊かな成長に向けて、働きかけ、指導をしていきたいというふうに思っております。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ、先ほども私言いましたけれども、まず自分でしっかり自分の身を守ると。それから仲間を助ける。そしてその後に公共、消防、警察、そういうところから助けていただく時間を待つという、そういうやっぱり教育は、道徳教育の中でもどこでもそうですけれども、そういうのをやっぱり小さいときから教えていくことが大切だと思いますし、災害の恐ろしさ、糸魚川市は災害の宝庫ですので、災害の恐ろしさを、糸魚川市はこういうところなんだということをしっかり教育の中で教えていただければというふうに思っております。

次に、シートゥーサミットについて伺いたいと思います。

先日、能生でシートゥーサミットをやられたんですけれども、開催地をちょっと調べますと、野尻湖や千曲川、そして佐渡なんかでもこのシートゥーサミットが近くでやっているんですね。なぜ今回周りでやっているということなのですが、上越3市でシートゥーサミットを行うことになったのか。このイベントは何を目指しているのか、その辺をお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

シートゥーサミットにつきましては、アウトドアメーカーのモンベルが特別協賛する環境スポーツイベントでありまして、海、里、山を巡りまして、環境について考えるものであります。

開催に至った経緯につきましては、上越3市と上越・糸魚川地域振興局で組織します広域観光ブランド検討会におきまして、これまで地域の魅力発信ですとか、ブランド化に取り組んだところがありますけれども、このたび妙高市から上越3市でシートゥーサミットが開催できないか、また開催するに当たっては当市でカヤックの部分を実施できないかという打診がございまして、広域的な検討をしてまいったところでありまして、このたび開催に向けてシーカヤックの実証実験を行ったところでありまして、

この目的、目指すところでありまして、このイベントを通しまして上越3市も広域的なア

ウトドアの魅力発信はもとより、当市の海の魅力の向上によりまして一層の誘客に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

妙高市さんもやってなって野尻湖でカヤックをやって、そして要は妙高のほうへという流れのことをやっていたと思うんですけども、なかなかうまくいかなかったというところがあると思うんですね。能生事務所に伺いたいんですけども、過去に能生地域で、このシートゥーサミットと同じようなスポーツイベントをやっていたんですが、トライアスロン、そしてグランfond、この二つの大会が大体最大で何名ぐらいの出場者がいたのか。それからなぜこれが終了してしまったのか。直接これはスポーツイベントには能生事務所として関わってきたというものではないと思うんですが、その辺の情報が分かれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

能生町トライアスロン大会は約300人の参加で14回、グランfond糸魚川は約1,000人の参加で15回開催されており、地域振興に寄与されたものというふうに承知しております。この二つの大会は、どちらも実行委員会形式で開催されておりまして、スタッフの皆様からはボランティアの確保などに問題があったというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

すばらしい大会でしたよね、これは。私も参加こそしたことはないんですけど見に行ったりしてましたし、大勢の方々、300人、1,000人というすばらしい人たちが集まっていたいでやっていたわけですけども、今ほど能生事務所長のほうから話がありましたように、どうしてもこういう大会、300人、500人というふうに集まってくるとボランティアが足らなくなると。最終的には、ボランティアの成り手がなくて、大会が継続できないんだということになっていくと思うんですけども、もし来年からこのシートゥーサミット2022が開催されるとしたら、ボランティアの確保をどのように考えているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今回の実証実験に当たりましては、B&G海洋クラブの皆さん、また遊魚船クラブの皆さんです

とか、海洋高校からもご協力をいただいたところではありますが、実際の大会の開催に当たりましては、規模ですとか、人数を精査した上で上越3市でのそういうスポーツクラブ、スポーツ団体の皆さんから協力をお願いしたいと思っておりますが、このイベントの魅力を十分発信した上で協力していただける方を募ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

私も遊魚船クラブの会長として協力を今回させていただいて内容的には分かるんですが、今まではボランティア、要は無償、ボランティアさん無償だったんです。今はもう有料ボランティアということで、有償ボランティア、もうボランティアさんもある程度の最低のお金を払いながら協力していただくという時代になってきたのかなというふうに思っていますし、今ほど話があった参加者、スタッフの名前を見ると上越と糸魚川市の地域振興局、それから観光協会など入っているわけですが、糸魚川市の役割とすれば、まず今回はマリンドリームからでしたけれども、できれば次回は能生浜からというような予定を立てているようですけど、カヤックが終わってバイクに、筒石の港南公園のところでバイクに乗り換えてから乗り換えた時点でボランティアの活動というのが終わるとすればそんなに多くは要らないと思うんですけど、その辺のボランティアのそこで終わりかどうかという、どこまで関わっていくのか、その辺お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

シートゥーサミットにつきましては、環境スポーツイベントということで、現地でのカヤックですとか、サイクリングもそうなんですけど、前日に環境シンポジウムも開かれます。ですので、現地の対応としましては、弁天岩なりからスタートして、筒石までの間のボランティアということになるかと思いますが、地域の環境を考える上でもそういうシンポジウムへの参加ですとか、あと当然地域でやるからには宿泊も伴ってまいりますので、そういう宿泊とかへの対応の協力ですとか、そういうものを含めてお願いしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今回の参加者は試験的にやったということで10人程度の参加者の中で行われたんですね、4.4キロという短い距離の中で。能生浜からやるというと、多分その倍ぐらい8キロ以上になるのかなというふうに思いますが、もし来年ですね、この3市でやるサミットが2022が開催されたとしたら、何名ぐらいの参加者を見込んでいるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

このシートゥーサミットにつきましては、最大300人というふうにお聞きしておりますけれども、初年度の開催とする場合、100から150人の間ぐらいで小さくスタートして、その実施状況を鑑みまして、できれば徐々に大きくしていければというふうを考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

これは全国的な取組なので、もしかしたら新しいところで開催されるという、PRの仕方もあるかもしれませんが、100から150人というよりは200人ぐらいは集まってくるのかというふうには私に思っていますけれども、先ほど課長が言われたみたいに、どこの開催地を見ても、定員が300名、300名になり次第、募集人員を断るというようなことが書かれていました。ぜひ300名になるように頑張ってくださいと思いますし、先ほどもちょっと話が出ましたが、これシートゥーサミットは2日間の予定で行われると。まず、初日に環境シンポジウム、午後から半日ぐらいかけてシンポジウムが行われるということですが、能生からカヤックが出るとしたら、早朝、翌日ですね、早朝に5時頃の集合、6時頃の出発というふうなことも伺っているんですが、そういう流れになると、当然シンポジウムは糸魚川市内で行われるものだと思いますけれども、その辺はどんなふうを考えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員おっしゃるとおり、前日の午後から環境シンポジウムがあり、早朝、今の計画では能生からスタートということになります。今回、上越3市と県で調整した結果、初回につきましては、環境シンポジウムは上越市での開催というふうを考えておりますが、当日、早朝の出発でもありますので、その宿泊ですとか、その他の面について糸魚川市にもメリットがあるようにというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

参加する人たちにしてみれば、同じ市内でやられたほうが良いと思うんですね。これは糸魚川市が頑張ってシンポジウムを糸魚川でやるんだというぐらいの声をを出していただければ、次の朝の選手の対応も楽だと思いますので、その辺を頑張っていただければなというふうに思いますけれども。この参加料は1人1万3,200円、そのうちの500円が環境保全協力金ということですが、この参加費というのは1万3,200円というのは、これはどこに何に使われるお金か分かりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

参加費につきましては、このイベントにかかる経費に充当されるということでありまして、その詳細につきましては、今調査中でありまして、できれば冒頭、議員からご提案のあったボランティアにつきましても持続可能なようにするために有償ボランティア等も含めて、大会規模ですとか、参加人数によって調整してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

有償ボランティア、お金がかかりますので、こういうところから算出していただければありがたいというふうに思いますし、今ほどもしかしたら上越市で環境シンポジウムがあるんじゃないかということが言われたんですけども、糸魚川市とすれば上越であっても宿泊はなるべく糸魚川で泊まってもらおうという方向に持ってきてもらう必要があると思うんですね。糸魚川市はカヤック、上越市はバイクなので通り過ぎていただけなんです。ほとんどメリットがないんですね。だからシンポジウムやりたいと言っているのかもしれないかもしれませんが、妙高市もバイクで終わって、大体夕方頃に終わってそのまま帰られるということで、糸魚川市とすればすごくメリットのある大会だと思いますので、ぜひ糸魚川市にお金が落ちるようにしていただければなというふうに思いますし、妙高野尻湖シートゥーサミットの総延長は34キロ、佐渡は34.5キロというふうになっています。この距離なら先ほど能生事務所長が言われたみたいに、トライアスロンやグランフォンドの実績がある糸魚川市だけでも3市でやらなくても十分糸魚川市だけでもできるのではないかなと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり糸魚川市の環境を見ますと、海もあり、自転車道路ですとか、谷に入っていく道もあり、山もあるということで市単独でも開催は不可能ではないかと思いますが、今回初めて上越3市で広域で実施するということもございまして、その状況ですとか、参加人数、また対応状況、あと特別協賛の会社との関係もございまして、それらを考慮しまして、できるようであれば地元単独開催ということも視野に入れて検討したいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

立ち上がりが上越3市でという話で進んでいますので、いきなり糸魚川市でやるぞという話では

きんと思うんですよね。でもほかの大会を見ると、佐渡も野尻湖のほうもそうですけど、単発で終わっていくんですよね。やっぱり何か原因があると思うんですよ。それはやっぱりほかのところと一緒にあったりというのもあると思うので、一つ市で完結できれば一番いいのではないかなというふうに思っていますし、糸魚川市の場合は、このスポーツは大体自然を楽しみながらゆっくりと走るといったところもありますので、能生浜をカヤックでスタートして、久比岐自転車道、それから山をずっとバイクで回って、塩の道をハイクで歩くという、そういうすばらしい環境もありますし、ゼロから3,000メートルというすばらしい環境も整っていますので、ぜひ何年か後には、もし方向がずれてくるようだったら糸魚川市で開催できるようにしていただければなというふうに思いますし、やっぱり300人集まるということは、家族とか仲間も来ますので、300のものはやっぱり500、600人という人間が間違いなく入ってきます。糸魚川市における経済効果はすばらしいものがあると思うんですよね。だからぜひそういうふうにやっていただければいいと思いますし、できれば糸魚川で開催するときは、ジオパーク、シートゥーサミットという名前でやっていただければなというふうに私は勝手に思っているんですよ。やっぱりジオパークを売る機会にもなるかなというふうに思っていますが、市長、その辺はどうですか、ジオパークを絡めたシートゥーサミット。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

自然を満喫できるイベントかなとお聞きさせていただいております。やはり糸魚川市においては本当に海あり、山あり、そして施設がある程度整っている部分がありますので、いろんな見せ方ができるだろうと思っておりますので、今始まった上越3市のイベント、それを見ながら、さらにバージョンアップすることもあってもいいのではないかなと思っておりますので、まずは様子を見させていただきながら、そういったところに波及できるよう研究していきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひこのコロナ禍で落ち込んだ経済対策の一環だというふうに思っていますので、ぜひ成功させて、まずは上越3市で成功することが一番だと思いますのでよろしく願いいたしたいと思います。

次に、執務環境についてですが、今ほど答弁をいただきました執務環境、阿部議員とともに少しお願いをしてまいりました。電気のほうは8月の半ば頃からつけていただいたということですので大変ありがたいなというふうに思っていますし、職員も明るい中で食事ができるということはたった15分ではありますが、大変いい取組だなというふうに思っておりますので、これに対しては言うことがありません。

2点目の食事ができるスペース、これは検討中だというふうに思いますが、庁内には空き室が少ないんですよね。そういった中でも何とか利用状況を見ながら、毎日同じ場所で食べるということ



は無理だとしても、週に2日とか例えば月・水・金だとか、そういった日にちを決めまして、場所がずれるならば、朝の朝礼で言うとか、庁内放送をかけるとかいうことで、今日はどの部屋で食事ができますよみたいなことをできないかなというふうに思いますが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

昼食時等の会議室の開放につきましては、先ほどもお答えさせていただいたとおり、検討してまいりますということですが、なるべく昼休みでございますので、多くの機会を設けて開放日は増やしていきたいと思っております。周知につきましては、ただ毎日がいいのか、週ごとがいいのかというのはちょっと検討してまいりますけれども、なるべく空いている時間は職員に開放していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

私も言い出しっぺなんですけど、心配しているところがあって、果たして段取りをしたら皆さん来てくれるのかというのがちょっと心配なんですよね。だからそういった中で各課でちょっとアンケートを取って調べてからやったほうがいいのかなという気もせんでもないですし、県庁を見ると、県庁は食堂がなくなって、そこで特に女の人が食事をしている姿が見られますので、ぜひやっていただきたいと思っております。

時間がないので、ちょっと。洋式トイレ、これはぜひ下の1階、2階から始めていただきまして、暖房便座とウォシュレットつきのものにしてもらいたいということを私のほうから要望いたしまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。再開を2時10分といたします。

〈午後2時02分 休憩〉

〈午後2時10分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、横山人美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）